

浄泉寺報

第2号
2015年
秋彼岸



彼岸会に想う

浄泉寺住職 望月廣三

人こそ人の鏡、というスパイスの利いた面白い諺があります。他人の言動を手本にして、自分の至らない点をあらためよ、という

ことらしい。

なるほど、私たちは、なにが難しいといつても「自分」を知ることほど難儀なことはないようです。これを凡夫というのでしようが、しかし自分を知らなければ何にたいしても、事の始まりにならないようです。お彼岸の意味は迷いの海を渡って到達する、悟りの世界のことで、親鸞聖人は、迷いの海を渡るためにはまず「自分を知らず」という水を掻く「權」が必要だと教えています。

人のふり見て我がふり直せ「ない」のが、私たちです。直そうとしても直せない、愚か者です。そして、直そうとしても直せない「自分」だということを、彼岸に向かつて掻く權が教えてくれているらしいのです。

※權：船のオールのこと。



【報恩講のお知らせ】

十二月十二日(土)

●大速夜法要

●御伝鈔拝読：薄明かりの本堂で、親鸞聖人のご生涯を読み上げます。今年

は下巻(御流罪からご往生、本廟創立まで)を若院が拝読します。

【法話】望月廣三住職

十二月十三日(日)

●満日中法要

●お斎：手作りのお膳を召上っていただきます。

【法話】熊谷宗恵師

(真宗大谷派元宗務総長

・金沢 仰西寺前住職)

※真宗門徒にとつて最も大切な法要です。お誘い合わせお参りください。

時間等、詳しくはご案内のお便り

(十一月下旬頃発送予定)をご覧ください。

若坊守のひとりごと

子育てにイライラする日々が続いていました。そんな時、よく通る道で目にする黒板に書かれている法語が、突然心に飛び込んできました。

「思い通りになるものだと、このころに迷いがある」(安田理深) 自我を持った娘に対して、自分の都合や思いを優先させ、娘と衝突する私の姿が突然見えました。そもそも私の「思い」というものが、自体が不確かなものであるのに、何にイライラしているのだろうと、突然アホらしくなりました。うまくいかない事実をそのまま引き受けていくことは簡単ではありませんが、自分の愚かさをまた知って、少し肩の力が抜けたように思います。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏（仏壇）に座る ② ～ 本尊 <一番大切なこと> ～

このコーナーでは、皆さんのご家庭にあるお内仏（仏壇）についてのアレコレを連載します。



仏壇を置くスペースがない場合には、このような小型の三折本尊もあります。立派な仏壇でなくとも、生活の場にご本尊を安置することが大切です。中央に阿弥陀如来立像、向かって右側には「帰命尽十方無碍光如来」、左側には「南無不可思議光如来」という2つの名号で阿弥陀様のはたらきが表現されています。

※三折本尊は本山で受けられます。お気軽に浄泉寺までご相談ください。

浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）です。私たちは、仏様といえは人間のような姿かたちをした仏像や仏画をイメージしてしまいます。しかし、仏様とは本来姿かたちあるものではなく、私一人の姿をありのままに映し出してくださる鏡のような大きな「はたらき」なのです。あるいは、私自身の誤魔化しのきかない影を照らし出す光のような「はたらき」といってもいいと思います。ところが「はたらき」といったところで、人間には何のことやらさっぱりわからないので、姿かたちある仏像や名号（「南無阿弥陀仏」や「帰命尽十方無碍光如来」、「南無不可思議光如来」といったことば）で表わすことによって、はじめて私たちは私の真実を知らしめるその「はたらき」に手を合わせることができるのではないのでしょうか。私たちが亡き方を通して仏様に手を合わせるきっかけをいただいたのと同じように、お釈迦様という人を通して、仏様の大きな「はたらき」に出遇った人たちが、お釈迦様をモデルとして今日仏像として伝わっている姿で仏様を表現したのではないかと思います。

仏様を表わす「如来」という言葉は、「如」から来た、つまり真実から来たという意味です。そのような仏様の大きな「はたらき」に出遇ってみれば、私という人間は「どこまでも真実に背く者であったなあ」ということだけが見えてきます。巻頭の住職の文章にもありましたが、自分では絶対に気づくことのできない、直そうとしても直せない「自分」を仏様は教えてくれるのでしょ。

そのように真実から逃げる私を追いかけて、「これでもか！」と私に私の真実を教えようとしている真剣さが、私たちがいただくご本尊・阿弥陀様の立っていらっしゃる姿に表わされているのだと感じます。太陽が真東から昇り真西にまっすぐ沈むこのお彼岸、ご本尊に向き合うことをとおして、決してまっすぐには歩ききれない私を教えられることです。

（浄泉寺若院・釋亜世）

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798